

○議長（長澤健君）

通告4番 3番 笹本壽彦君の一般質問を行います。

3番 笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

それでは早速、通告に従いまして平林地区の増徳西小学校跡地に計画している農村文化農業宿泊施設について伺います。質問要旨1から伺いますが、現在のコロナ禍において、全国の宿泊施設が苦境に立たされ、廃業、閉館などが相次いでいる現状で、この計画している宿泊施設の利用者数はいかほどと見込んでいるのか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの笹本議員のご質問にお答えいたします。本施設は、高齢化によって担い手が減少している平林地区で、地区の方とふれあいながら、農業体験などで訪れる人たちが日帰りではなく、ゆっくり地域を楽しんでいただいたり、滞在して農作業に取り組んでいただくために、この宿泊施設を計画いたしました。

この施設の利用者数の見込みにつきましては、過去の棚田オーナー制度や農業体験の利用者数と平林地区の観光入込客数を参考に算定をいたしましたところ、初年度の令和4年度は年間約400人、令和5年度は約600人を見込んでいるところであります。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。一般的には本当に厳しく細かく調査やマーケティングをして、それをしっかり行って事業計画を立てて行うのが、普通の常識であると思います。そのような調査やマーケティングをしっかりとしても、必ず成功するとは限らないのが現実だと思います。先ほど、見込人数を令和4年400人、令和5年600人という数字を伺いましたが、具体的にはどのような調査を行ってこの見込みの数字を出したのか、再度伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。先ほど申し上げましたとおり、見込みの調査については、これに限った調査はしておりませんが、過去の棚田オーナー制や農業体験の利用者数、また平林地区の観光入り込み客数を参考に算出をいたしました。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。平林地区には増穂ふるさと自然塾という宿泊ができる施設があります。そこにはコテージが2棟あって、テントで過ごせるスペースも大きくあります。これらの年間の使用料は200万にも満たないという数字が出ていますが、ふるさと自然塾の宿泊コテージの稼働率はどの程度なのか、伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ふるさと自然塾のコテージの令和2年度稼働率につきましては、20.4%でございます。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

コテージの宿泊稼働率が約20%であれば、計画している宿泊体験施設の稼働率も非常に危ぶまれると思うのですが、その辺は大丈夫なのか、伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。ふるさと自然塾は平林地区で、森林や自然と触れ合いの場をつくることなどを目的に整備をされた環境学習の拠点とした施設であります。一方、この農業体験宿泊施設は、平林地区で行っている農業体験や棚田オーナー制度の利用者が日帰りではなく、数日間平林に滞在をし、農業に取り組んで、地域の人々との交流ができるように整備をするものでありますので、ふるさと自然塾とは目的や利用形態が違うものでありますので、一体には比較はできないと考えております。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

わかりました。それでは、質問要旨2に移ります。実施設計に当たり建設条件などについて伺いますが、この農村文化農業宿泊施設を計画するに当たり、町からは、設計などにどのような条件や提案をしたのか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。増穂西小学校跡地の活用につきましては、平林区からは、夜間照明設備を含むグラウンドや体育館は今までどおり地域で活用したいとのご要望がありました。そのため、校舎跡地部分での活用を考えまして、その中で最大限配置ができる数の宿泊施設を4棟、計画をするものであります。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

棚田があって、天気の良い時には富士山も見えてというような景観と、今度計画をしているその宿泊施設の、このデザインの整合性みたいなものは提案をしているのでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。設計、条件などにつきましては、その都度、まだ実施設計を作成中でございます。それで設計の業者とも打ち合わせをしながら、今、作成をしているところでございます。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

ということは、例えば屋根はこんな感じでとか、壁の色はこんな感じでとか、見た感じがその山の風景に違和感がないように素敵な感じに、とかというような要望とかは出していないくて、今の段階では設計事務所のデザイン任せということでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。ただいま実施設計が作成中ございまして、その中で町の要望なり、そのところは打ち合わせをしながらの設計をしているところでございます。

○議長（長澤健君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

補足をさせていただきます。平林に造るコテージ的な4棟であります、敷地もそんなに広くありません。そこに4棟入れるということになります。当然車で来る人が多いと思いますので、駐車場も必要になると思います。そういう中で、

小さな建物ですが、家族で来ても泊まれるように、基本的には4人が限度だと思います。ただ、友達を連れてくる場合もありますから、平屋ではありませんがロフト的なものもできれば入れてほしいというようなことで、最大6～8ぐらいは、夏の時期のいい時には入れるのではないかなとは思っておりますが、景観の部分で見ますと、当然、平林地区ですから、すべて木造で計画をしてくださいという注文はつけております。そして平屋建て。そして面積は国の補助金も使えますので限られた面積の中でということで、あとデザイン的なものは、やはり我々がいろいろ言うよりも、そういったものを専門的にやっている設計会社の案を見て、町でも、そしてまた平林の皆さんにも見ていただきながら、何より利用者が一番利用しやすい建物でないと来れないと思いますので、華美なものではなくて、農業体験、そして地域との交流の施設ですから、観光施設ではありませんので、その辺を中心に今設計をやっているところであります。以上です。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。3月の議会において、町長が平林地区からの要望があつて宿泊施設を整備することにしたとおっしゃいました。私が平林地区の数人の方々にお尋ねをしたところ、1億円を超える事業と聞いて皆さん一様に驚いておりました。先ほど平屋で4棟とお聞きしましたが、平林地区の住民の方からの要望があつての平屋の4棟なのですか、伺います。

○議長（長澤健君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

平林地区では、まだ西小が存在していた時期から、やはり棚田オーナーとか、大根、じゃがいもの会員制度を持っておりましたので、ぜひ宿泊施設を欲しいという要望が数年前、もう10年以上前からありました。当時は平林の上の方にあるヴィラという建物がちょうど空き家になったものですから、それを平林地区の人たちが、なんとか買い取って修復できないかといういろいろ計算をしたわけです。ありますけども、1億5千万から2億ぐらい掛かるという中で、西小の廃校という案が出てきました。その際、もう子どもがいないからやむを得ないと、ただ跡地の活用であれば、ヴィラに変わるようなものをしてほしいという要望がありました。そこで、民間の会社がそこを宿泊施設にしたいということで、町も跡地を売ったわけです。建物は無償で譲渡したわけでありまして、その民間会社の計画がとん挫しましたので、再度平林区の皆さんと話をしたら、やはり当初どおりの思いがありますと。4棟というのは、さっき言ったあの敷地の中へ、最大限造って4棟だと思います。3棟でもいいわけでありまして、棚田オーナーだけ

でも200人近くメンバーがおりますし、それにじゃがいも、大根の会員もいます。当然町内の人は通いで来ますけれども、県内の遠いところ、そしてまた県外もおりますので、そういう人達のことを考えたり、今後の平林の発展ということ考えると最大限の4棟、今回計画をしております。これは当然平林の皆さんに棟数もある程度の規模もお話をしながら、合意に達したから町も議会のほうにそういう説明をしているということでご理解いただければと思います。以上です。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

わかりました。それでは質問要旨3に移ります。建設費に関する詳細について伺いますが、この事業は校舎の解体関連費用が約2170万円。設計業務委託520万。今回の建設の予定価格は8288万円ですから、総額1億1千万円にもなる大事業となります。そこで、この平屋の4棟を含む8288万円の予定価格ですが、その内訳を教えてくださいませんか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの建設費の詳細につきましてのご質問にお答えいたします。この農業体験宿泊施設の建設工事費につきましては、現在、実施設計の段階であり、詳細は確定しておりませんが、国の補助金を活用する予定であるため、年度内に完成をさせないとなりません。今回、提出いたしました補正予算の14節の工事請負費の積算に当たって、宿泊施設は国の補助基準額である1平米当たり29万円に1棟分の床面積の約50平米を乗じ、4棟で5800万円。屋外トイレおよび手洗い場700余万円と外構工事600余万円に、コロナ禍でウッドショックの問題もあり、資材の単価が高騰していることから、1.15倍をした金額の予算計上をしたところでございます。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

世界的に木材価格が高騰していて、輸入材の先物相場は3倍にも4倍にもなっているというのが現状です。国内材も昨年より既に1.4倍以上になっているそうです。今回この見積もった予定価格ですが、これらの今お聞きした数字ですと、この材木が上がった分も見越しているということによろしいでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。この農業体験宿泊施設の建設工事費につきましても、現段階では確定をしておりませんので、国の補助基準額を基に算出をさせていただきました。また、資材の単価が高騰していることなどから、この1.15倍をした金額を計上させていただいたところです。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

ちょっと失礼なことを聞きますが、この見積もり予定価格は産業振興課で算出できるとは考えにくいのですが、どの部署が見積もったのか教えていただけますか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ご質問にお答えいたします。先ほども申し上げましたけれども、この工事費につきましても、国の補助基準額を基に算出をし、計算をしたところでございます。産業振興課で算出をしました。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

西小の解体工事にあって、解体をするのに設計料があつて、設計事務所が解体の前に設計をして、そして解体に入って、おっとどっこい、追加で120万円だよということもありました。解体費用で、屋根が2重だったとかなんとかといつて、そういうことがあるので、後々になって工事金額の大幅な追加なんていうことの心配はしなくてよろしいでしょうか。

○議長（長澤健君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

いつも言うことですが、予算は字のとおりあらかじめの算出であります。今、例に出していただいた解体費などは、設計をして設計書がはじき出した金額を限度に予算化をしているところでありますが、今回解体を実際にやってみたら構造がちょっと違っていたという部分があります。当然いろんな面で、アスベストが出てきたとかなんとかあれば、予算は変更していかなければならないと思いますが、今回、1.4倍になっているのか、2倍3倍になっているのか木材価格はわかりませんが、今1.15倍の余裕を見ながら、今回出しております。そして、根っことなる単価も平米当たり29万円、これは国の単価でありますから、それを基に総額を出してあります。期限がもう少しあつて、ゆっくりできれ

ばいいわけではありますが、西小の問題は皆さんご承知のとおり、いろいろな問題があつて今になってきておりますが、そうは言いましても、一瞬を過ぎると1年間ずれていくということがありますから、今回、国の補助制度もいただけるやの話をお聞きしておりますので、この際、今年度中に仕上げて、国庫補助金をとりながら整備をしていこうということで、今回、あくまでも暫定でありますけども予算額を計上させていただきました。その額は今工事費のみであります、想定できる額に1.15倍をして、当然これから設計書が出てくればその設計書の設計額が限度額ということで、工事発注はやっていきたいと思っております。今後、さらに予算が増えるのか減るのか、それはこれから詳細設計が出てきて、それを見て、そしてまた不要なものは削除しながら、適正な価格で発注をしていきたいと思っております。以上です。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

私も今のこの木材の高騰状況からすれば、非常に不安は持っております。それとは別に、この1億円を超える大きな事業であります。完成して、稼働できるまでには、例えば布団なのかベッドなのか、電化製品は何があるのか、食事をするためのテーブルや椅子も必要なのか、というふうに思うわけですが、それらの予算はいかほど見込んでいるのでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。今回定例会に計上させていただきました17節、備品購入費ですけれども、75万円にはテーブルや椅子、冷蔵庫や掃除機といった電化製品が含まれております。

○○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

わかりました。質問要旨4に移ります。稼働後の運営費、維持費について伺いますが、完成して宿泊事業を開始すれば、当然、当たり前の水道光熱費などが掛かるわけですが、宿泊施設としては衛生管理費用というのが、これ以外とばかにならなくて掛かっているそうです。運営するにあたり、年間の維持費、ランニングコスト等ほどのくらい見込んでいるのでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの稼働後の運営費、維持費についてのご質問にお答えいたします。農業体験宿泊施設の維持経費につきましては、清掃作業員の人件費、施設維持消耗品費および光熱水費、浄化槽検査および保守管理費、電気設備法定点検料、消防用設備保守点検料、建物火災保険料、パソコンやスマートフォン利用者のためのWi-Fi通信料など、600人規模での利用した経費を、年間で約300万円を見込んでいるところでございます。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。私が心配になるのは、年間、連日、宿泊者がいるわけではないと普通に予想できます。職員の配置と人件費とかは、どのように計算しているのでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの人件費についてのご質問にお答えいたします。現在は施設清掃者の人件費としまして45万円を見込んでいるところでございます。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

わかりました。それでは質問要旨5へ移ります。

稼働後の運営管理の計画について伺いますが、平林活性化組合に委託を予定しているとか聞こえてきました。また、ちゃんと公募の形式をとるのでは、というふうな意見も聞きました。全国のコロナ禍において、宿泊施設が苦境に立たされている中で、運営管理をしっかりとできる計画はあるのか、伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。農業体験宿泊施設の管理・運営につきましては、平林交流の里「みさき耕舎」と連携した取り組みが必要不可欠であると考えております。

このようなことから、現在、指定管理者としてみさき耕舎を運営している平林活性化組合に、この宿泊施設の運営につきましても併せて行っていただきたいと考え、現在、組合と協議をしているところであります。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。とてもそれで私はいいいと思います、平林地区の棚田が山梨県内で初めて、法律に基づく指定棚田地域となり、今後、保全事業には国からの補助率が増えるとの報道がありました。山梨県としてパンフレットなども作成してPRを行うそうですが、食糧品さえも平林地区内で調達は十分にできない状況でしょう。消費や供給に関して、せっかくPRをしていく中で、消費や供給に対する対策はあるのか伺います。

○議長（長澤健君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

冒頭、ふるさと自然塾の稼働率の話が出ました。課長から令和2年度は20.4%という説明させていただきましたが、平成30年度は8.5%の稼働率でした。令和元年度は8.3%でした。コロナ禍の影響かどうか分かりませんが、令和2年度はぐんと増えているというのが、自然塾の中身であります。またそれを野外施設、あるいはテントサイトとみますと、テントサイトがぐんと増えているということで、コロナ禍だからこそ、そういったところでキャンプをしたいという人が増えているのではないかなと思っております。今回の宿泊体験施設の管理運営につきまして、みさき耕舎を管理しております平林活性化組合と今協議をしているところでありますが、これまでのふるさと自然塾は平林地区から離れておりますので、許可は町がして、そして、利用者はいろんなところから食材を買って来てもあそこに行ってしまうと。平林は通過だけだったんです。今回は平林の集落の中にその宿泊施設を造りまして、そして当然の申込をしていただいて、許可をするわけですが、その管理を活性化組合でやってもらうことによって、食材はどうしますかということも聞けるはずで、事前にわかっていますから、どんなものが食べたいということで、みさき耕舎のほうで、そういう食材も調達ができるようになってくると。そんな関係がありますので、ぜひ、みさき耕舎を管理している平林活性化組合に管理をお願いしたいなと思っております。当然、調理器具は付いておりますから、朝夜の調理は自分たちで出来ても、昼間の弁当とかなんとかは、みさき耕舎が弁当の供給業者でありますので、そういうところと連携をしながら、数日間に亘って農作業を中心にやっていただくための施設でありますので、ぜひ、みさき耕舎との連携ということは必要になってくるといいますから、今後も平林活性化組合の皆さんのご理解をいただきながら、常時はいなくていいと思います。これからそういったお客さんも来るということ、そしてまたその消費需要は、さらに拡大をするということも活性化組合のほうでご承知いただきながら、管理運営を行っていただきたいと考えているところであります。以上です。

○議長（長澤健君君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。よくわかります。平林地区で消費がなされなければ、活性化といってもカスミのようなもので、仙人がカスミを食って生きていけますが、平林地区に現実的な利益がもたされるような、お金が落ちるような施策は何か考えているのか、伺います。

○議長（長澤健君君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

今言ったとおりでありますけども、平林のみさき耕舎を管理している平林活性化組合が受付をし、管理をし、そして宿泊を申し込んで来てくれた人には、みさき耕舎のほうでいろんな食材の調達できますよということも伝えていただきながら、平林の活性化、地元の人たちもそんな意味で、多分そういった施設を欲しいと言ったのがここ10何年ありますので、1日も早く施設を造ってやって、後は地域の人の努力も当然あるだろうとしますけれども、今言ったように棚田オーナーだけでも200何人はいるし、また、じゃがいも、大根、トマトは会員がおりませんが、そういった人たちだけでも100何人いるということから、さらに、また棚田の指定も取りましたので、今後は平林も役場もいろんな人たちも含めて棚田文化の継承ということもやっていかなければならないと思っておりますから、そういった中でも、都会の人にも農村の原風景であるこの棚田を守っていただく、そんなふうに入っていただければ、この施設が成功した方向に進んでいくのではないかな、こんなふうには思っているところであります。以上です。

○議長（長澤健君君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

民間ですと、その投資したのを一生懸命回収しなきゃならない、ある意味公共事業、役場の仕事ですから、利益は求めないにしても、せつかく造ったのだから、本当に大勢の人に来てもらって、稼働率が、毎日毎日忙しいくらいになるといいなと思っております。そこで、役場でもいろんなところで、役場のホームページを、ホームページをとということをよくおっしゃいます。以前にも申し上げましたが、私は20数年前に自社のホームページを作って、かなり成功した記憶があります。それで、富士川町のホームページから、このみさき耕舎、ふるさと自然塾とか検索しても、この程度なんです。これだと、見ても素敵さがわからない。どんなに良いのかわからない。現在の増穂ふるさと自然塾、みさき耕舎などのホームページは、正直に申し上げれば検索しづらい。画像が小さく見づらい。施設

の内容が詳しく見られない。ないないづくしのホームページです。せっかくこれだけの宿泊施設を造るわけですから、山梨県でも棚田としてパンフレットを作ったりして宣伝をしてくれる。ホームページというのは、広告宣伝費が少なくて済むツールですよ。ですから、これを一生懸命活用するのは必然のことです。ちなみに富士川町観光物産協会からも、みさき耕舎とかふるさと自然塾へつながります。ページが古すぎる。平成です。それから、みさき耕舎はみさき耕舎で検索すれば、ポンと出るページはありますけれども、それでも内容が詳しくない。ふるさと自然塾に至っては、テントの写真がこんなに小さく、コテージもあって、普通ならそれをクリックすれば、コテージの中がきれいに見えたりとか、そうするのが普通なんです。それができていない。それから、富士の国山梨というところから検索すると、ページが2019年6月6日現在です。せっかくのツールをめいいっぱい有効に活用するような施策は考えていないか、伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。ホームページの内容につきましては、こちらのほうで見直しを順次はしておりますけれども、足りないところもあったかと思えます。改善できるところはしたいと思っておりますので、早めの更新に努めて参ります。

○議長（長澤健君君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

役場の職員の中にも、こういうことが得意な方が複数いらっしゃると思います。ですから、その担当もあるんでしょうけれども、1回、そういう方を集めて、それともうちょっと外部の意見も入れて、ホームページを見やすく、本当に活用できるようなことを計画することはできませんでしょうか。伺います。

○議長（長澤健君）

町長 志村学君。

○町長（志村学君）

いいご指摘をいただきました。私どももいろいろなところにリンクができるようにやっている。ただ、リンクは張ってありますけれども、それぞれに任せているところもあります。今後は、今までも数100万とか、ずっとすれば1千万以上のホームページの更新、更新できていると思いますが、役場の中でも、そういうのをすべてチェックできる場所を作りながら、おかし気なところは新しいものに更新をしていくというようにやっていきたいと思っています。今、コロナ禍でサテライトスタジオというのが、もっともっと見直されてきておりますけれども、

ただ単に、この部屋ですよというのではなくて、ここで、この周りの風景も入れながら、こういう環境の中で仕事ができるんですよ、というような新しい形もあると思いますので、いろんなことも含めて役場の中にも精通した人間もおりますので、一度そういった、今のままのホームページの絵面でいいのかどうなのかも含めて、そしてまた皆さんにわかりやすく、そして映像で訴えるようなホームページになっていけば、もう少し皆さんもご利用いただけるのではないかと。そんなチェックできる部署をしながら、今の古いような情報が載っているホームページは最新版に切り替えていきたいと思っております。以上です。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

私、だいぶ以前ですが、議員になる前、こういう提案をしたことがあります。役場のホームページで、役場の何々課に電話しようとして、ホームページを見てもなかなか出てこないのです。例えば福祉保健課へ電話しようと思っても、ぱつと出てこない。これはトップページのどこかに役場の課一覧とかがあっていうものを作って、ポンとそこを押せば何々課電話番号と出るのが普通で当たり前のような気がする。それを以前、指摘というか、アドバイスしたことがありましたが、いまだにないんです。

○議長（長澤健君）

通告からずれていますけれども、さきほどホームページの部分もありましたので。今、そのまま質問にいきますか。

○3番議員（笹本壽彦君）

そういうふうに、せつかくですからホームページも見やすく改修していけば、この宿泊施設も稼働率が上がるのではないかなと思いました。以上で終わります。

○議長（長澤健君）

以上で、通告4番 3番 笹本壽彦君の一般質問を終わります。